



Sekishou 通信



R7・3.31

NO, 最終・特別号

文責：校長 酒井

めざす児童像：夢や希望を追い求め、失敗も学びにかえる子



さようなら、益々のご活躍を心より祈願いたします。（HPのみの配信です。）

3月28日、クリスタルホールにおいて「離任式」が行われました。

私感ですが、我々教職員は、子ども達を送り出すのが仕事ですので、送り出されるのは何度経験しても慣れませんし、苦手です。当日は子ども達からのメッセージを聞いては涙し、先生方のお別れの言葉を聞いては涙し、泣いている子ども達の姿を見てはまた涙し…。

最後の別れはきちんとした言葉で、できるだけ笑顔でと思うのですが、あふれる感情を抑えることが出来ません。普段は冷静な〇〇先生の涙や言葉に詰まる〇〇先生の姿が、その時々子ども達とのやり取りと重なって思い出されました。

子ども達も立派な態度でした。特に、最後の最後に全校生と全職員で歌った校歌は、今までで一番の校歌でした。「これが最後だから」と思い、しっかりと歌うはずでしたが、隣の教頭先生や他の先生の涙声が耳に入ってきたこともあり、ところどころ詰まってしまう、声になりませんでした。そんな姿を見ていたのでしょうか、子ども達が先生方の分までと、心を込めた校歌は、クリスタルホール中にうねりとなって響く惜別の歌となりました。

「ここから風を起こすんだ、われらは石川の人、人」かろうじて最後のフレーズだけは、しっかりと歌えた校長です。（本校の校歌は、曲も詞も素晴らしいと改めて思います。）

今回、役職定年制という制度の適用で、覚悟はしていましたが、校長と教頭が退職・異動という異例の人事となりました。他に異動する先生方も多く、保護者の皆様には不安に思われている方もいらっしゃると思いますが、新スタッフは校長をはじめとし、これまでの本校の良さを大切にしながら、野木沢小の子ども達を迎え、町唯一の新たな石川小を創造するにふさわしいスタッフです。

これまで同様にあたたかい理解とご協力をお願いします。

私にとって充実した2年間でした。自慢のスタッフと自慢の保護者、そしてあたたかい地域の皆様に支えられた、教職最後の2年間は自分の誇りです。ありがとうございました。

携わってくださった全ての皆様に感謝申し上げますと共に今後とも石川小学校をよろしく願います。

幸多からんことを心より…。



職員室での離任式(先生方のこれまでを少しだけ振り返って)

M・T 教頭先生：本校教頭としての激務を5年間、しっかり勤め上げてくださいました。その間3名の校長のもと、学校経営にご尽力くださいました。陰になり日向になり、時にユーモアを交えたトークは、職員室を明るく活気に満ちたものにしました。電話越しの保護者への丁寧な対応、学校が学校として機能するための柱を、一手に引き受けてくださいました。子ども達はもとより先生方の体調にも注意を払いました。「定時退勤日です」の声は、我々の健康を一番に思う教頭先生の思いやりの一声でした。

U・S 先生：本校勤務5年、その間研修の柱として、本校の頭脳として、ある時はICTの達人、ある時は保健室登校の子ども達を優しく包みこむおじさん、またある時は、ももクロの完コピおたく!? 果たしてその正体は？ 4月からは大里小の教頭先生です。

Y・A 先生：言わずと知れた高学年のスペシャリスト。どんな子ども達もきっちり育てる手腕は正に「〇〇〇」マジック。平成から続く8年間の勤務で、人呼んで石小の生き字引。沢山の先生方が、その後ろ姿から多くを学ばせていただきました。毎朝のライン引きも頭が下がりました。

Y・M 先生：2年間育ててくださった子ども達は、生き生きとしていて、素直でアクティブで、芯が強く、M先生そっくり。今年の学年のチーム名「パピヒューム」は、JAROに訴えられるのではとハラハラしましたが、「かしまし娘」張りの…もとい「キャンディーズ」張りのチームワークの良さは最高でした。

S・H 先生：英語専科教諭として、本校の外国語科を一手に引き受け、しょって立ってくださいました。小中の連携を意識した指導は、コミュニケーションを大切にしたり、外国語学習の王道を行くものでした。提出された週案には常に、授業の反省と解決策がびっしり。教頭職は激務ですが、ミセスH、You can do it if you try!

S・H 先生：卒業式にはわざわざお越しいただき、子ども達の門出を祝ってくださいました。研修意欲が高く、育休前は国語部の柱として研修を進めました。特別支援にも造詣が深く免許取得にもチャレンジしました。このたび、育休あけのタイミングでのご異動となりましたが、新天地におきましても益々の活躍を期待します。

Y・A 先生：大学を卒業しての3年間、飛び込んだ初等教育の世界はいかがでしたか？何事にも本気で打ち込み、思い通りにいかず目に涙を浮かべて悔しがらる姿を何度も見かけました。子ども達に愛され、先生方に愛され大きく成長しました。どうぞ、新天地におきましても子どもに寄り添う教師であり続けてください。

T・K 先生：本校5年の長きにわたって活躍くださいました。クラスに足が向かない子には、優しく、時に厳しく、遊んだり、褒めたり、すかしたり、あの手この手で関わってくださいました。クラス仕舞いの最終日、全員の笑顔がそろったのは、先生のお人柄と熱意のお陰です。

M・Y 先生：3年間お勤めくださいました。飛び込んだ小学校は慣れないことも多かったと思いますが、持ち前のフットワークの軽さで、常に子に寄り添い、とにかく元気なクラスをつくってくださいました。登校を渋る子どもを毎日笑顔で向かえ入れ、時に、抱えて教室に連れて行くパワフル姉ちゃんです。

S・K 先生：小学校、しかも新採用拠点校指導教員、と初めての尽くしの中、仕事はきっちりこなします。先生方の言葉に耳を傾け、時には合唱の指導の真髄を伝えることもありました。春からも遠距離通勤はまだまだ続きそうですが、どうぞ無理せずに安全運転でお願いします。そろそろ紅葉マークの準備を！オッ失言でした。

T・J 先生：「どうしても、見つかりません。」と、正にちょうど1年前事務所の管理からの電話に頭を抱えていたとき時、退職を決意されていた先生が本校を救ってくださいました。低学年のスペシャリスト、子ども達の5年後10年後を常に視野に妥協を許さない指導は、若い先生方に多くの示唆を与えてくださいました。

K・M 先生：持ち上がった子ども達を立派に卒業させました。試行錯誤、暗中模索の2年間でしたが、腰の弱さ! ?とは裏腹に決して弱音を吐くことはなく、淡々とこなすタフさは高校時代駅伝で培ったもの。最後にクラス全員が証書を手にしたのは、先生の子どもの思うあきらめない根気強さが心に響いたからですね。益々のご活躍を期待します。

子どもたちとの離任に先立ち、職員室で行われたお別れの会で、校長がその功績を簡単に紹介した内容です。離れ行く先生方の新天地でのご活躍を祈願いたします。

これにて、石川小での校長としての任を解かせていただきます。 酒井修三